

第3回「前田純孝賞」入賞作品

(一般の部)

前田純孝賞

道さだめ君は行きしかわれはまだ百万本のコスモスの中

広島県広島市 平木 由美

準前田純孝賞

曼珠沙華段畑天に続きいてゆるり動けり花嫁の列

和歌山県野上町 井澤 佳代子

海面に身軽く飛び出すイルカ達予想を越えて更に先を跳ぶ

長野県青木村 沼田 哲治

窓いっぱい白き襦袢の帆を揚げて育児の船を今漕ぎ出しぬ

愛知県豊橋市 山本 香織

マヤ夫人は釈尊を生み給ひたり私は障害者の娘をはぐくむ

兵庫県豊岡市 瓜原 智津

クルーたちが一人二人と起きてきて沖の夜明の赤き雲見る

兵庫県香住町 滝本 正直

浜坂町長賞

裏道を行けば戸をあけ亡き友がひよっこり顔を出すやも知れぬ

兵庫県美方町 井口 清子

他人ごとのように遠く打ち上がる祭の花火三つまで見る

愛知県蟹江本町 田中 徹尾

降りくらむ雪のむこうの暗みより下校の児らの弾む声湧く

鳥取県船岡町 大谷 紀美子

指白き少女の手話をみるような資材置場のコスモスの揺れ

石川県鹿島町 本田 恵美子

鳩ぼつぼの作詞はだあれ「東くめ」ポツポツポと歌碑見に行かな

広島県庄原市 土井 一夫

人はみな気づかぬうちに運命の分岐点を過ぐそよ風のごと

大阪府寝屋川市 豊島 由子

先頭はからすうりを提げ一列に山際くだる遠足の子ら

奈良県桜井市 浦 萌春

暑かろつ母の口癖電話から冬囲いするふるさとの町

アフリカ 薄田 直樹

此の駅に降り立つこともなくなりて君住む町を電車は過ぎぬ

徳島県東祖谷山村 田辺 顕一

ひびわれの遠い彼方に海ありてむつころつはね空ながめおる

長崎県諫早市 松尾 弘泰

浜坂町教育長賞

キャベツひとつ戦ひのごとく食べつくすワンルームマンション単身赴任

沖縄県那覇市 中山 光一

雲間よりのぞく小さな青空にわたしが座する椅子ひとつ置く

北海道札幌市 工藤 きみ子

傷つきし戦友のごとくに座右に置く背表紙の文字擦り古る辞書を

新潟県柏崎市 神林 敏夫

肩の荷をおろした様な夕方の後姿の人達が好き

熊本県熊本市 甲斐 一世

俺達の青春時代を知っているジエームスディーンの杳き眼差し

宮崎県日向市 田尾 英一

オレンジをむぎつつ思う明け方の夢に探しし靴の正体

東京都豊島区 中山 いづみ

円えがきつつ泳ぎいし魚の群れ帯状となり河口へ向かう

和歌山県有田市 木下 昭一

森の奥ブナの大樹に脈々と水の流るる音聞きにゆこう

岐阜県大垣市 伊神 舞子

鹿の声遠近に聞き朝月の残れる明りに大根を獲る

兵庫県関宮町 森下 としかず

くらぎ地にやわらかに膝折りゆけり春のらくだはグランドピアノ

神奈川県川崎市 新堂 美枝

神戸新聞社賞

渓谷の鉄橋渡る機関車がソプラノのソロの汽笛を鳴らす

愛知県豊川市 平松 憲

地震後を戦後を耐えて生きてきて面白かったと死んでゆけそう

兵庫県神戸市 後藤 彦次

何処からが夢の続きか知らねども風に道化する君といた海

滋賀県栗東町 佐々木 隆

点滴の泡は幾何学模様となり寄りて離れてわが眼のあそび

兵庫県八鹿町 守本 悦子

売られゆくことを知らずに振り向かぬ仔牛に柿の村遠くなる

兵庫県豊岡市 蔭山 光延

急ぐとか焦るの動詞を今朝もまた吾子の頭にインプリントする

兵庫県三田市 山脇 祥子

海底になった火の底にもなった記憶語らぬ黒き土塊

福岡県宗像市 星 裕子

ひたぶるに漕げば私がすれ違ふふらここふらここ水が匂へり

兵庫県神戸市 亀谷 たま江

産まれくる子のためガラス磨きおり冬木伸びゆくはじめての空

兵庫県豊岡市 水口 奈津子

曲に乗る駱駝の影絵くつきりと王子王妃の分校の子ら

山口県美祢市 白井 美保

(中・高校生の部)

浜坂町教育長賞

自転車にはじめて一人で乗れた時どこか遠くへ行けると想った

大阪市立日本橋中学校 角谷 真理

テーブルの上の林檎を見て想う赤色と混ざる青色と私

兵庫県立浜坂高等学校 宇野 清生

無機的な数字の群れに支配され受験受験と疑問の日々を

大阪府夕陽丘高等学校 中務 徳浩

汗光りほほをつたつたその時に視線あつめた君の横顔

兵庫県立浜坂高等学校 和田 卓衛

死にたいと思った私を抱きしめた恩師の影を今も忘れず

武庫川女子大学附属高等学校 広瀬 由佳

奨励賞

十六で逝きし姉ちゃんアルバムの中でキラキラ輝いている

愛知県立宝陵高等学校 鳥居 ひと美

今日もまたおしゃべりしながら帰り道今日あったこと明日あること

温泉町立照来中学校 寺谷 美保

前書いた手紙はどうぞすてて下さい思い出すとはずかしいから

武庫川女子大学附属高等学校 近藤 まゆみ

一本のタスキをつなぎ走り抜き結果はみごと但馬で3位

浜坂町立浜坂中学校 浜上 恵美

いつもちがう表情見せる海見える北校舎は私の大好きな場所

浜坂町立浜坂中学校 増田 直美

秋の日の干し柿並ぶ窓ぎわでかすかにゆれた祖母の思い出

兵庫県立浜坂高等学校 山本 真理子

砂の星小さくひそかに輝いて私は今ここで生きている

兵庫県立浜坂高等学校 山本 真由美

父おやは出番の少ない本当の主役じゃないかと最近に思う

兵庫県立浜坂高等学校 井上 洋也

秋風を吸い込むように手を広げ夕日が沈むその音を聴く

東京都太田区 源田 和樹

ポツポツと降り出した雨に人々はいろんな色の花を咲かせる

大阪市立日本橋中学校 河村 恵里